# 令和７年度　伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会　会議の概要

【日　時】令和７年 10 月 17 日（金）19 時 00 分～20 時 00 分
【場　所】伊豆市役所別館　２階 大会議室
【出席者】25 名

（敬称略）

| 機関・団体・役職名等 | 氏名 | 役職 |
|---|---|---|
| 総合計画審議会　委員 | 勝呂　義衛 | 会長 |
| 伊豆市商工会長 | 山田　健次 | 副会長 |
| 三島信用金庫　伊豆エリア長 | 大川　直子 | 委員 |
| 株式会社 ＦＭ ＩＳ | 尾原　睦 | 委員 |
| 伊豆中学校　校長 | 駿藤　衛 | 委員 |
| Familyizu　ママスタッフ | 関野　彩歌 | 委員 |
| 伊豆市長 | 菊地　豊 | |
| 副市長 | 伊郷　伸之 | |
| 副市長 | 安藤　詳平 | |
| 教育長 | 鈴木　洋一 | |
| 総合政策部長 | 新間　康之 | |
| 総務部長 | 井上　貴宏 | |
| 市民部長 | 勝呂　信哉 | |
| 健康福祉部長 | 大石　真 | |
| 産業部長 | 大路　弘文 | |
| 建設部長 | 山口　吉久 | |
| 教育部長 | 小塚　剛 | |
| 危機管理監 | 大村　俊之 | |
| 議会事務局長 | 稲村　栄一 | |
| 企画財政課長 | 土屋　直也 | 事務局 |
| 企画財政課 主査 | 太田　成一 | 事務局 |
| 企画財政課 主任 | 深澤　香織 | 事務局 |
| 企画財政課 主任 | 三須　博之 | 事務局 |
| 企画財政課 主事 | 山田　息吹 | 事務局 |
| 企画財政課 主事 | 村上　彩乃 | 事務局 |

【資　料】
- 次 第
- 伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議委員名簿
- 伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議設置要綱
- 資料１ 伊豆市　令和７年度　市民アンケート調査結果概要
- 資料２－１　伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略との伊豆市総合計画との統合について
- 資料２－２　伊豆市まち・ひと・しごと創生第２期総合戦略（概要版）＜令和７年１月改定＞
- 資料２－３　第２期総合戦略のＫＰＩ及び施策評価について【令和６年度分評価】
- 資料３－１　伊豆市まち・ひと・しごと創生第３期人口ビジョン
- 資料３－２　伊豆市まち・ひと・しごと創生第３期総合戦略（素案）（概要版）
- 資料３－３　伊豆市まち・ひと・しごと創生第３期総合戦略（素案）一覧表
- 資料３－４　伊豆市総合計画基本計画（素案）

開　会

## １．議事

**（１） 市民アンケート調査結果概要報告【**資料１**】** に基づき、事務局より説明

**≪ 意見交換 ≫**

（委員）子育て、出産、小児医療体制が気になる。子どもの具合が夜に悪くなった時に見てもらえる病院が無いという話が職場でも出ていて、不安を感じる。
伊豆市では３人目を出産する割合が全国平均の約２倍という話は大変素晴らしいことだと思う。

（委員）ラジオ局の取材を受けてくれる方はバイタリティに溢れていて、自分で何かしよう、何か楽しいことをしたい、まちづくりを考えたいという方が多いが、私が取材する人はそういう人に偏っているんだなと思う。
資料を見て、まちづくりやまちのために何をしたらよいかわからない、自分がやるのは無理と考えている市民の割合が多いと思った。そういう方にどのように関わってもらうのかという点が難しいと思う。
何かをやってください、だとハードルが高いと思うが、知らず知らずのうちに、いつの間にか自分が関わっていたみたいな入口を作ることが必要なのかなと思う。

（委員）ママ同士で会話をする内容は子育て支援に関することが多い。
小児科の病院について長岡、函南や伊東まで行く方もいる。伊豆赤十字病院が夕方にやっていることがなかなか周知されていないのか、すごく空いている。周りにすごく使いやすいという話をすると、「そんなのあったの」っていう話が出る。子育て環境の整備や支援の面でも周知が足りていないところがたくさんあると思う。
仕事と子育ての両立という点で、子どもが病気になったときに職場で融通が利かず、トラブルになってしまうことがあった。また、他の方でも、こどもの園の時間に間に合うよう職場に調整を申し出た所、断られたということも聞いたため、身近なところでも仕事と子育ての両立の難しさを感じている。

（委員）「いずびと」というキーワードが示されていて、伊豆市へ愛着のある人たちを各学校で目指しているということがある。中学校だけでなく、小学校、義務教育学校も同様で、「伊豆市への愛着」に直結するのではないかと思う。私見になるが、伊豆市の事を嫌いという子を見たことが無い。
各小学校、中学校、義務教育学校などで今まで培ってきたことが身について力になっているのではないかと思う。
伊豆市に住んでいれば市内の小学校、中学校で学んでいくことになるが、それだけでは不十分だという感覚がある。
どういうことかというと、伊豆市の事はよくわかっているが、他と比較をしないと伊豆市がどれだけ素晴らしいかがわからない。近隣市町や地方、世界で今何が起こっているのかを学ぶことで、視野が広がり、伊豆市が素晴らしいということがよりわかるようになる思う。

（副会長）「伊豆市に住み続けたい」が 78%だが、下を見ると、10 代 20 代は「できれば市外に移りたい」「すぐにでも移りたい」のパーセンテージが高い。地区ごとで考えると、土肥はだいぶ数字が落ちている。
一番気になるのが、関係人口を増やすための取組への関わりの中で、自分自身が取り組むのが難しいという回答。やり方がわからないのか、やる気がないのか、やろうとしないのか。青年団や消防団などの中でお互いが地域で何をしようって話し合うこともあるが、そこに若い世代の姿がないのが残念。
子どもや親も自分たちの住んでいる所の歴史を知らない、学んでいない。地元の歴史を子どもにも親にも教えられるような環境を作っていきたい。そこから自分たちに何ができるかっていうことも見えてくる場合があるのではないかと思う。

年齢が高い方で「自分自身が取り組むのが難しい」が突出していることは、次の世代に受け伝えることがない、できないっていうことだと読み取れるが、このまま何も伝わらず、地域の良さが次世代に伝わっていかない、という点が心配。
もう少しデータを読み解くと、どういう手立てをしていけばいいのか見えてくるのではないかと思う。

（会　長）５年後、10 年度の伊豆市を、色々思い描いた。住んでみたい、住んでよかったと思えるような伊豆市になるよう、着眼点を見据えて話し合いをしながら明確化していきたいと思う。

**（２） 伊豆市まち・ひと・しごと創生第２期総合戦略のＫＰＩ及び施策評価について**【資料２－１、２－２、２－３】 に基づき、事務局より説明

**≪ 質疑応答・意見交換 ≫**

※各委員から特に意見等はなし

**（３） 伊豆市まち・ひと・しごと創生第３期総合戦略（素案）について**【資料３－１、３－２、３－３、３－４】 に基づき、事務局より説明

**≪ 質疑応答・意見交換 ≫**

（副会長）　団塊の世代がまだ健全でいらっしゃる方が多い。この世代が多いと高齢化は続くが、若い人たちも少ないため、数値が下がっていく。死亡者数が増えていく中で人口形態の数字が一定して減るのか、急激に落ちるのか、人口ビジョンの中で社会的な推移がなかなか読みとれない。

伊豆市で何か考えないと子供たちや若い世代がここに定住してもらえなくなる。若い世代を伊豆市に定住させるために若い世代に夢を与える施策を検討していく必要がある。

## ２．その他

（事務局）　皆様から本日いただいた貴重なご意見については、とりまとめのうえ公表させて頂きます。
以上をもちまして、令和７年度伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

**【閉　会】**